

1. 分類

- ・タカ目タカ科 オジロワシ
(学名 *Haliaeetus albicilla*)
- ・国内希少野生動植物種（平成5年）
国指定天然記念物（昭和45年）
絶滅危惧 II 類（環境省レッドリスト2020）



2. 形態的特徴及び生物学的特性

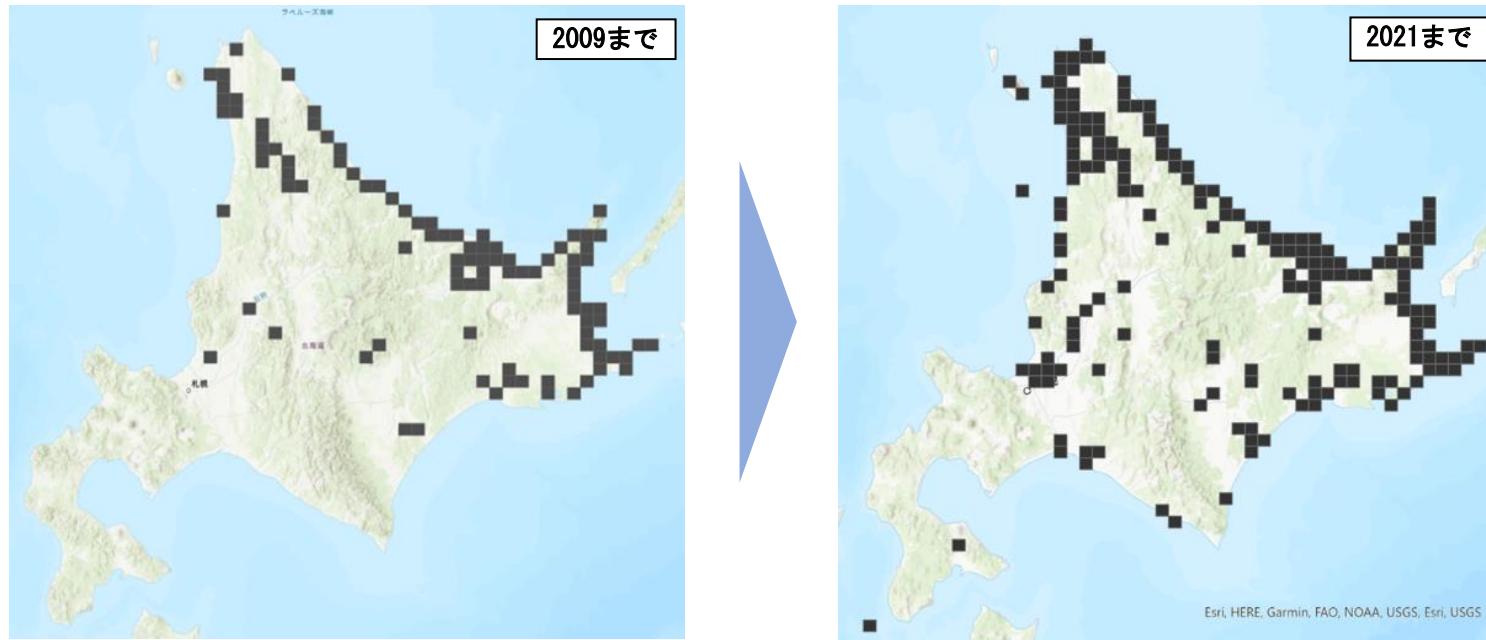
- ・全長約69～92cm、翼開長200～245cmの大型のワシ類。
- ・海岸や湖沼周辺、河川流域の大木に営巣。
- ・海鳥類、スケトウダラ等の海産魚類を捕食。
漁船が捨てる雑魚も餌にしている。
- ・冬期は本州北部から中部にも渡り、希に九州、琉球列島にも飛来。
- ・国内ではロシアの繁殖地から飛来して越冬する冬鳥集団と北海道を主とする国内に周年留まり、海岸や湖沼周辺を中心に繁殖する留鳥集団が確認されている。

3. 分布状況

- ・ヨーロッパ、西アジア、東アジアに分布。
- ・極東における繁殖地はカムチャツカ半島、サハリン、北海道等。

4. 北海道における生息状況

- ・種としての総個体数は約20,000～60,000羽と推定。（IUCN、2021）
- ・北海道と本州北部で越冬するオジロワシは約700～1,000羽。
(オジロワシ・オオワシ合同調査グループ及び環境省による調査、2010年～2020年度結果より)
- ・北海道の推定営巣つがい数は約350つがいであり（環境省、2021）、
1990年代に入って営巣地域、地点数共に緩やか増加傾向が続いている。

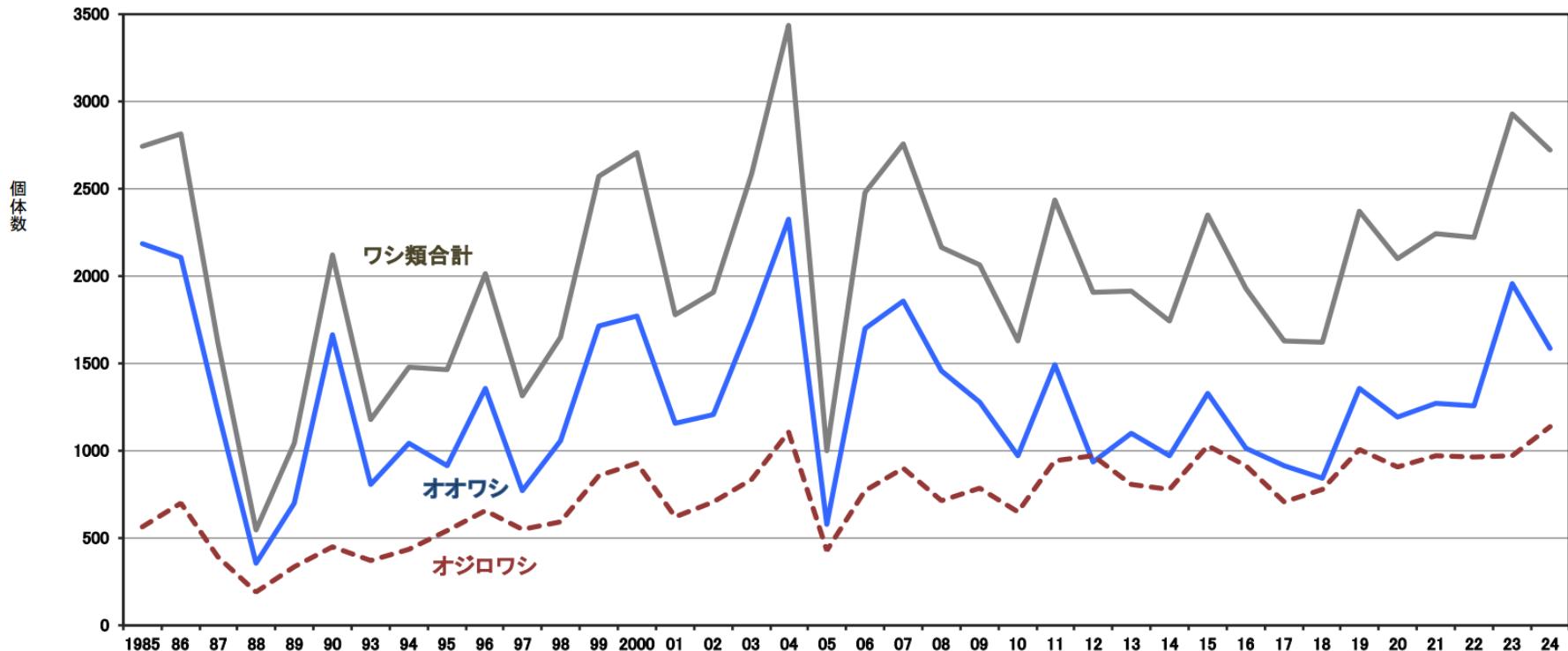


確認されたオジロワシの営巣地を含む二次メッシュ分布地図（環境省 2021）

5. 知床半島における生息状況

- ・2003年から知床半島オジロワシ長期モニタリンググループにより行われている繁殖状況調査では、アクセスが容易ではないことから正確な情報把握は困難ではあるが、知床半島の推定営巣つがい数は約40つがい、うち知床半島先端部では1～2つがいとされている（知床半島オジロワシ長期モニタリング調査グループ、2021）。

6. オジロワシの越冬個体数の推移



オオワシ・オジロワシ一斉調査における北日本の越冬個体数推移（2月下旬）
※オジロワシ・オオワシ合同調査グループによる一斉調査結果より引用

7. オジロワシの生活史

- 12～2月 つがい形成・交尾期
2～3月 造巣・既存巣の補修
3～5月 抱卵・抱雛
5～7月 巣内育雛
6～7月 巣立ち

表－1 繁殖ステージと平成19年度調査



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道に生息する一般的なオジロワシ	抱卵	孵化	巣内育雛期	巣外育雛期		独立期		求愛・造巣期		産卵		3/4抱卵確認
標津川流域に生息するオジロワシ	孵化	巣内育雛期	巣外育雛期	独立期	求愛・造巣期	産卵	抱卵					
H19年度調査実施時期								①	②③④			

オジロワシの繁殖に配慮した工事実施の取り組みについて

釧路開発建設部治水課 2008

<https://thesis.ceri.go.jp/db/giken/h21giken/JiyuRonbun/KK-29.pdf>

オジロワシの詳細な営巣情報が掲載されているため非公開

オジロワシの詳細な営巣情報が掲載されているため非公開

(参考) 知床岬のシカ捕獲事業におけるオジロワシへの配慮

- ・ 知床岬地区においては、平成19年からエゾシカの管理捕獲に試験着手し、平成21年より本格着手。
- ・ 岬地区にシカが集中する冬季～春季（12月～6月）に捕獲員を船舶やヘリコプターで輸送し、柵への追い込み、銃猟（忍び猟、巻き狩り猟、待ち伏せ猟）で捕獲。
- ・ 過去の最大は、年間捕獲数152頭、1日当たりの最大捕獲員30名（いずれも平成21年）
- ・ 令和2年以降は、5月に少人数の忍び猟を実施していたが、令和5年に発生したヒグマによる捕獲員の事故を踏まえて、岬の捕獲事業は一時停止。令和6年度も捕獲は行わず、今後の管理方針を再度検討する予定。
- ・ 平成22年に「希少猛禽類の保全とエゾシカ対策の実施に関する意見交換会」を開催し、専門家ヒアリングを踏まえて「オジロワシ営巣木の周辺200m以内の立入禁止、500m以内の滞留制限区域を設定すること」がルール化され、現在もこの運用を行っている。